

中部地域の普及活動（普及活動月報）

令和7年12月 中部農林振興局

(中部農業改良普及センター)

目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P 2~4)
- 1 農業経営指導士と県農政水産部との意見交換会
 - 2 本郷南方地区基盤整備事業準備委員会の先進地視察
 - 3 新木地区基盤整備事業推進委員会の先進地視察
 - 4 宮崎県大規模稲作等経営体ネットワーク会議研修会の開催
 - 5 12月期子牛せり市開催
 - 6 宮崎中央家畜市場子牛品評会開催
 - 7 JAみやざき宮崎中央地区本部 施設園芸セミナー開催
 - 8 宮崎支店胡瓜部会SCS研修会開催
 - 9 完熟きんかんフェアに向けた視察受入
 - 10 完熟きんかん出荷前一斉分析を実施
- II 主な普及指導活動等の取組み (P 5~8)
- 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動
 - 1 青年等就農計画の作成支援
 - 2 きんかん収穫体験ワークショップ(体験型イベント)開催へ向け事前協議を実施
 - 3 綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会の開催
 - 4 宮崎市SAP会議の農福連携活動支援
 - 5 宮崎市・綾町SAP会議のプロジェクト発表支援
 - 6 高岡トップレベル研修会が開催
 - 7 中部管内の大規模稲作経営体への個別支援の実施
 - 8 AUP会現地検討会が開催
 - 9 ダイコンほ場に散水チューブ設置を設置
 - 10 深ネギほ場に散水チューブを設置
 - 11 かんしょ栽培講習会の開催
 - 12 農業経営者サポート事業専門家相談会を開催
 - 13 飯田地区病害虫対策説明会
 - 14 JA宮崎中央菊部会国富支店12月現地検討会が開催
 - 15 JA宮崎中央洋ラン全体会が開催
- 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動(一般活動) (P 9)
- 1 綾町農業経営相談会を開催
 - 2 中部地区茶園品評会が開催
 - 3 水稲研究部会等の実績検討会の開催
 - 4 JA宮崎中央トルコギキョウ研修会目揃え会及び現地検討会が開催

I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

1 農業経営指導士と県農政水産部との意見交換会

22日、県電ホールで開催され、中部地区からは2名が出席しました。

地域が抱える課題・解決に向けた取組等について、意見交換が行われました。



【意見交換会】

2 本郷南方地区基盤整備事業準備委員会の先進地視察

16日、関係者20名で都城市沖水の農事組合法人「きっとかな田」及び、「夢ファームたるぼう」に基盤整備事業と集落営農の概要について視察に行きました。両法人は、1ha規模の大区画化、及び集落営農による耕作者の確保への取組など貴重な話が聞けました。情報収集した内容が今後の活動に活かせるように生産者を始め関係機関一体となり取り組んで参ります。



【事業概要の説明】

3 新木地区基盤整備事業推進委員会の先進地視察

23日、関係者約15名で、鹿児島県曾於市大隅町の笠木原地区に基盤整備事業及び集落営農の取組の視察に行きました。

同地区は、1ha規模で普通期水稻とかんしょのブロックローテーションに取り組んでおり、効率的な作業体系が組まれていました。参加した生産者からは、「大規模な作付を実際に見て、参考になった」との感想がありました。



【事業概要の説明】

4 宮崎県大規模稻作等経営体ネットワーク会議研修会の開催

2日、JAビルで県内の大規模稻作経営者17人と市町・JA等の関係者が集い、県再生協議会主催により開催されました。研修会では、各経営者の作業上の工夫や抱えている課題について意見交換が行われ、支援を行う関係者にとっても参考になるものでした。

3日、近隣2経営体の現地研修を行い、施設や機械等について説明を受けました。参加した経営者からは、大変参考になった旨の意見が多く聞かれ、今後も再生協議会を中心に関係機関が連携し、経営体の発展に向けて支援していきます。



【宮崎市の経営体の乾燥施設研修】

5 12月期子牛せり市開催

11日と12日の2日間、宮崎中央家畜市場で開催され、合計647頭（雌：289頭、去勢：358頭）の出場がありました。

セリ前講習会では、JA畜産部長から概況等の説明、続いて普及センターから「今年は冬は下痢に負けない」と題して講習を行いました。

なお、今回子牛平均価格は、雌767千円（前回比113千円安）、去勢862千円（前回比123千円高）、総平均820千円（前回比117千円高）という結果になりました。



【研修会に参加する生産者】

6 宮崎中央家畜市場子牛品評会開催

15日、JAみやざき宮崎中央地区本部と綾町地区本部との合同開催による1月期子牛せり市に向けた12月期子牛品評会が家畜市場で開催されました。

審査の結果、国富支店の長友和雄氏の「かなみ」号（孔明桜産子）が優等1席を受賞しました。審査委員長から発育良好、体の伸び、深さ、側望・後望からの均称の良さ、体型の釣り合いバランス、皮膚のゆとり、しまりが評価されていました。



【優等1席「かなみ」号】

7 JAみやざき宮崎中央地区本部 施設園芸セミナー開催

3日、JAみやざき南宮崎営農センター（本会場）と各営農センター（リモート）にて、施設園芸セミナーが行われました。

総合農業試験場の黒木副場長からタバココナジラミの性質と防除、厳寒期に向けた栽培管理のポイント、バイオスティミュラントの利用と目的の3つの項目についての説明がありました。

質疑応答の時間には、多くの質問が出ており、生産者と関係機関含めみんなで知識を深めることができました。



【温湿度管理に関する説明】

8 宮崎支店胡瓜部会SCS研修会開催

18日、JA宮崎営農センターにおいて、生産者約30名、JA指導員2名が参加し、SCS研修会が行われました。

研修会の講師は総合農業試験場の黒木副場長が務め、厳寒期に向けた栽培管理として温湿度管理や病害虫に関する説明があった後、バイオスティミュラントが作用するメカニズムについて説明がありました。

講演後は、説明内容を踏まえ具体的な管理方法について多数質問がありました。引き続き、農業試験場と連携しながら生産技術向上を支援していきます。



【視察対応】

9 完熟きんかんフェアに向けた視察受入

8日、高岡町完熟きんかんほ場において、東京の飲食店シェフ、バイヤー、東京事務所職員が3月に開催予定の宮崎フェア開催に向けて完熟きんかんの産地視察が行われました。

JA指導員から管内の完熟きんかんの生育状況等の説明があつた後、完熟きんかんの生育状況を視察しながら、意見交換を行いました。完熟きんかんの出荷は1月中旬からの予定ですが、順調に生育している様子を見学し、収穫時期の果実への期待が高まっているようでした。

大阪フェアに続き、東京でもフェアの品目に完熟きんかんが採用される予定で、フェア参加の飲食店で完熟きんかんを使ったメニューが提供される予定です。

10 完熟きんかん出荷前一斉分析を実施

15日、中部地区果樹技術員会にて、宮崎市管内の完熟きんかん全ほ場の果実一斉分析を実施しました。完熟きんかんの出荷が1月中旬から始まりますが、毎年、この時期に全ほ場の果実の着色状況、果実品質（糖度、クエン酸等）を調査し、出荷前の状況を確認しています。今年は夏の高温等で品質が心配されましたが、果実肥大、品質ともに順調な生育が確認されました。

これから、1月15日の完熟きんかん出荷解禁に向けて、引き続き、管理等の支援を行います。



【果実分析】

II 主な普及指導活動等の取組み

1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動

【総1・中部地域の農業を未来へつなぐ農業者の確保育成】

1 青年等就農計画の作成支援

12月は、5名の就農計画作成支援を実施しました。それぞれ就農予定者との相談をとおして、中長期的な視点で計画を考えるように促しました。

2 きんかん収穫体験ワークショップ（体験型イベント）開催へ向け事前協議を実施

28日、高岡営農センターにおいて、大学生の受入希望農家4戸を対象に、ワークショップの事前協議を行い、受入条件や受入期間等について調整しました。

このワークショップは、収穫体験をした学生が果樹経営に興味を持ち将来的に就農し、生産者と学生のマッチングが成立すること（承継マッチング）を期待し行っています。

担い手問題という産地課題解決の側面から、関係機関で構成される営農振興協議会果樹部会員と連携して実施しており、2～3月開催を予定しています。

今後も生産者や関係機関と連携し、担い手問題解決へ向けた支援をしていきます。

3 綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会の開催

28日、綾オーガニックスクールの運営主体である（合）アヤオーガニックワークスの事務所において開催され、関係者5名が出席しました。定例会では、農業実習や座学の進捗状況の確認、1月以降の取組内容や次年度のスクール運営費予算の検討、次年度研修生候補について協議が行われました。

普及センターでは、町役場とともにスクール卒業生等の就農計画作成支援を定期的に行っており、今後も関係機関と連携して、状況確認などの伴走支援を続けていきます。

4 宮崎市SAP会議の農福連携活動支援

みやざき中央支援学校が生徒の農業実習の受入先を探していましたことをきっかけに、SAP活動の一環として農福連携に取り組んでいます。

2日、きゅううりの箱詰め作業を学校内で実施しました。SAP会員が手順を教えた後、学生が作業を行いました。最初は、とまどいも見られましたが、スムーズに作業できるようになりました。

17日にはSAP会員のハウスで5名の学生が収穫後の片付け作業を行いました。

SAP会員は「助かる。思ったより早い。」と好評価であり、体験作業は3月まで継続する予定です。

今後も関係機関と連携し支援を続けていきます。



【箱作りを教えるSAP会員】

5 宮崎市・綾町SAP会議のプロジェクト発表支援

17日、県SAPグランプリ（1月20日開催）でプロジェクト発表を予定している宮崎市SAP会議4名と綾町SAP会議1名に対して、発表資料の作成支援を普及センターを会場に市と連携し行いました。来月の発表前には、発表練習等を行い、より良い発表となるよう支援していきます。

また、宮崎市SAP会議は、今回のプロジェクト内容を1月16日に予定されている宮崎市SAP冬季大会や2月17日に開催される宮崎県主催の農福連携セミナーにおいても事例発表する予定です。



【発表資料の作成中】

6 高岡トップレベル研修会が開催

23日、高岡町内現地ほ場において、新規就農者5名、先輩農業者1名、JA指導員2名が参加し、研修会が行われました。

JA指導員から今後の栽培管理について説明があった後、先輩農業者から自身の経験や今年の気候条件を踏まえて栽培管理に関するアドバイスがありました。

その後、普及センターから約1ヶ月後に摘心栽培の1作目が終了することや年末年始を迎えることを踏まえ、果実肥大を優先する場合や収穫休みを設ける場合の管理方法について説明を行いました。

引き続き、時期に合わせてテーマを変えながら生産技術向上へ向け支援します。



【果実肥大の仕組みを説明】

【総2・集落モデル育成による持続可能な水田営農の展開】

7 中部管内の大規模稲作経営体への個別支援の実施

15日、宮崎市内の1名を対象に、経営改善に向けた支援しました。

経営者との面談において、本年度の生産実績や経費面の把握を行い、次年度以降の作付品種の構成や機械等の投資計画について助言を行いました。経営者からは、「現在の経営内容や今後の取組に向け、整理していく内容が理解できた。」との意見が出されました。今後も大規模経営体の発展へ向け、技術や経営面で支援を行います。

【総3・施設園芸版スマート農業による高収益園芸産地の育成】

8 AUP会現地検討会が開催

2日、綾町内現地ほ場において、生産者等6名が参加し、開催されました。

今回は会員4名のほ場を巡回し栽培管理について意見交換を行いました。

AUP会は、自らが成長することを通じて綾町を元気したいとの思いで環境制御技術をはじめ幅広い分野の勉強会を続けています。引き続き生産性向上へ向け、会の活動を支援します。

【総4・マーケットインに基づく新たな土地利用型営農の展開】

9 ダイコンほ場に散水チューブ設置を設置

3日、宮崎市田野町に設置しました。生産者は、散水によるダイコンの収量向上効果を昨年度に確認しており、「今年度も再度、収量向上効果を確認したい。」とのことでした。今後とも継続的な利用のために、ダイコン生産者に対し散水チューブの導入を促していきます。



【設置した散水チューブ】

10 深ネギほ場に散水チューブを設置

1日、宮崎市清武町に設置しました。11月以降、例年と比較して降水量が少なかったことから、干ばつによる生育不良が心配される状況です。今回の設置により順調に生育し収量が確保できることが期待されます。生産者は「干ばつが続いているため散水できるのはありがたい」と話していました。

今後とも畑かん用水活用の展示や効果のPRをし、利用促進を行います。



【設置した散水チューブ】

11 かんしょ栽培講習会の開催

11月に引き続き、2日に佐土原町、10日に綾町において、次作に向けた講習会を開催しました。

基腐病や茎根腐細菌病を中心とした病害の特徴や防除方法を説明しました。また、定植後の時期の高温・乾燥により生育不良が見られたことから、その対策として、かん水の重要性についても重点的に紹介しました。

参加した生産者からは「今年の生育や病害虫の特徴がわかつた。」との感想がありました。



【かんしょ栽培講習会】

【専1・経営発展を目指す農業者の課題解決力の向上】

12 農業経営者サポート事業専門家相談会を開催

12日、農業経営者サポート事業を活用し、経営目標達成に向けた最適な経営の方向性を検討するため、個別相談会を開催しました。

税理士から、ケースごとに、最適な方法を提案いただき、相談者の課題解決につながりました。



【サポート事業専門家相談会】

【専4・ICM技術のフル活用による持続可能な野菜産地の育成】

13 飯田地区病害虫対策説明会

2日、JA高岡支店において、生産者約30名、JA指導員2名が参加し、説明会が行われました。

同地区できゅうり黄化えそ病（MYSV）の被害が深刻化していることを受けて開催されました。普及センターから「地域ぐるみで行うMYSV対策」と題して、清武町上木原地区で続けられている地域一斉除草の取組や、地域ぐるみで対策を行うことの重要性について説明を行いました。

説明後は、防除対策や周囲に広げないための対策について多数の質問があり、また、その後の協議では、次年度の8月に皆で一斉除草に取り組むことが決まりました。引き続き、被害低減に向けて同地区の活動を支援していきます。

【専6・生産技術向上による花き産地の維持】

14 JA宮崎中央菊部会国富支店12月現地検討会が開催

4日、国富町において、生産者15名、関係機関8名が参加し、開催されました。

会長挨拶後に、JAからの直近の情勢報告、年末出荷の予約相対分の出荷について説明がありました。普及センターから営振協高温対策展示ほ結果とICMチェックリストの実践の呼びかけと物理的防除について説明しました。

12月出荷作型を中心に状況を確認したところ、概ね生育良好でした。生産者や関係機関間で意見が交わされ有意義な会となりました。



【現地討会】

15 JA宮崎中央洋ラン全体会が開催

3日、宮崎市において、生産者29名、運送会社2名、関係機関8名が参加し、洋ラン部会の全体会が開催されました。

全体会では、会長挨拶後に、JAからの直近のコチョウランの出荷の市況や情勢報告について説明がありました。その後、懇親会も開催され、生産者や関係機関間で意見が交わされ、有意義な会となりました。

今後も普及センター、JAと連携し、現地ほ場での炭酸ガス施用効果の確認調査を行います。

2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動（一般活動）

1 綾町農業経営相談会を開催

17日、綾町商工会議所で、商工会と連携し、農業経営相談会を開催しました。3名から経営改善や規模拡大等について相談があり、現状把握と今後の方向性についての助言を行いました。うち1名については、農業経営者サポート事業の活用に向け、引き続き支援を行う予定です。

2 中部地区茶園品評会が開催

9日、中部地区の茶園品評会が開催されました。今年度は国富町2園、宮崎市高岡地区3園、田野地区2園、清武地区1園の合計8園の参加がありました。

品評会では、県農業試験場の茶担当専技及び茶業支場研究員を中心に審査を行い、病害虫発生状況、樹高、葉色等の地上部の状況の他、約60cmの穴を掘って地下部の根量や広がりも調査しました。

一部茶園では、病害虫の被害がみられましたが、全体的には良好な生育状況でした。今回の審査結果をとりまとめて各生産者へ伝えていき、今後の茶園管理に活かしてまいります。



【茶園審査の様子】

3 水稲研究部会等の実績検討会の開催

11日、宮崎市高岡町で、JAにこまる研究部会約20人を対象に、実績検討会を行い、普及センターからは、玄米品質低下の要因と、次年度以降の課題を説明しました。

さらに24日、国富町塚原で飼料用イネ採種組合員22人を対象に、本年度の実績検討を行い、契約数量達成に向けた基本管理の徹底と、高温下における主要病害虫の観察と早めの対応などを説明しました。

今後も、各生産組合の安定した生産活動のために関係機関と連携して支援を行っていきます。

4 JA宮崎中央トルコギキョウ研修会目揃え会及び現地検討会が開催

16日、宮崎市において、生産者7名、関係機関5名が参加し、開催されました。

室内検討では、会長挨拶後に、JAからの直近の情勢報告、新たな出荷規格箱について説明がありました。普及センターからは灰色カビ病対策チェックリストによる啓発を行いました。

生産者や関係機関間で意見が交わされ有意義な会となりました。



【目揃え会】

宮崎県農林水産業ナビ

～ひなたMAFiN～

ひなたマフィン

検索



情報満載！ぜひアクセスを！⇒